香取遺産

vol.201 大山詣りと石尊山

▲佐原石尊山の阿夫利神社

◀参詣を記念する碑

市内の寺社や集会場などの人が集まる場所で大山や阿夫利などの文字が刻まれた石碑を目にすることがあります。佐原地域下川岸地先の国道356号沿いにある石碑には、参詣講が大山詣りをして願いが成就した記念に碑を建てたとあります。参詣講は旅費を積み立て、代表者を送りだす集まりです。

江戸時代から近代にかけては、遠くの神社・仏閣を参詣することは、地元の外に出る貴重な機会でした。関東地域では、江戸時代中期から、大山阿夫利神社(神奈川県伊勢原市)を参詣する大山詣りが流行しました。神社は関東の広い地域から見える大山にあり、「阿夫利」が示すとおり雨ごいや仕事の成功を祈願する人々が訪れます。山頂の自然石がご神体であるため、祭神は石尊権現と呼ばれました。関東の各地には、石尊権現を祭る山を石尊山と呼ぶ例が見られます。

佐原地域下新町の南にある石尊山もその一例です。市街地側から鳥居をくぐり、石段を登り山頂に至ると阿夫利神社にたどり着きます。高さ2mほどの石が置かれ、手前の参道には、明治8年に奉納された手水鉢と明治14年に奉納されたこま犬一対があります。江戸時代末期の松沢村(現在の旭市清和乙)の国学者・宮負定雄による地誌「下総名勝図絵」では、佐原村の眺望図のなかに石尊山が描かれ、山の麓に鳥居、山頂には社殿があります。この頃には佐原村の大山として存在していたことが分かります。

市内には、石尊山のほか大山詣りに関わるものが多くありますので、探してみてはいかがでしょうか。

問 生涯学習課 ☎(50)1224